

分校の窓から

01
02
2022



2.24 地域清掃（河川ゴミ調査＆清掃）

2月24日（木）、今年度2回目の地域清掃が行われました。今回は貴志川漁業協同組合の職員で、美里河川愛護会で活動する木元敦子氏との協働で、貴志川の清掃を行いました。河川の清掃を通して、プラスチックゴミの現状を調査するとともに地球環境問題について理解を深めることを目指しました。生徒は事前にマイクロプラスチックが自然環境や健康に与える深刻な影響について学習し、3つの班に分かれて清掃に臨みました。

毛原宮の永宝橋下の河原では、夏になると川遊びやバーベキューをする人たちの姿を見かけます。しかし、近くの道路沿いの杉林にはペットボトルやコンビニのビニール袋に包まれたゴミが捨てられ、永宝橋横には「キャンプ・バーベキュー禁止」「ゴミは持ち帰りましょう」の看板が立っています。利用者のマナー違反が地域に負担を生じさせているの

ですが、自然を楽しむために訪れる人たちが自ら自然を汚し、利用が制限される状況は残念でしかありません。

シーズンオフのこの時期になると、河原にゴミはほとんど見当たりませんが、茂みなど人目につきにくい所に目をやると、やはり空き缶やペットボトル、プラゴミなどが捨てられています。生徒たちは火箸でゴミを拾い、分別しながらゴミを集めていきました。

学校近くにある事業所「美里クリエイト」の下の河原もバーベキュースポットです。近くのキャンプ場の客などが利用するそうです。

河原に降りて貴志川の透き通った川面に目をやると、川底に沈んだ空き缶や捨てられたお米の袋などが目に留まります。また、バーベキューだけでなく、ホースやワイヤー類、自動車部品などの産業用資材も辺りに捨てられてました。

大門橋周辺の貴志川岸には、コンクリート製の巨大ブロックが並んでいます。ブロックの間にはワイヤーやパイプなどの産業用資材が捨てられていましたが、ここでは特に水田の畦を切るトタン波板や農作業用衣類などの農業用資材のゴミが目立ちました。

生徒たちは足場の悪いブロックの隙間に潜り込みながら、埋まっているゴミを掘り出し、両腕で抱える程のゴミを集めていました。

今回の河川清掃を通して、学校周辺の豊かな自然の中にも様々なゴミがあり環境問題と無関係ではないことを知りました。原因として地域外の人たちが持ち込むゴミや、事業者等が出すゴミが考えられますが、いずれにしても、この豊かな自然が地域の貴重な資源であることを再確認することが大事だと感じました。美里分校は、今後も地域の自然を守るための活動に取り組んでいきたいと思ひます。





1.13 3年生を送る会

1月13日(木)6限目、視聴覚室において「3年生を送る会」が開かれました。1月末で授業が終了する3年生のために生徒会が発案し、全校生徒でカラオケを楽しみました。普段はおとなしい分校の生徒ですがカラオケが好きで、昨年11月の文化祭でも大いに盛り上がったことが記憶に残ります。

冒頭の生徒会長の挨拶の後、事前にエントリーした9組が参加。1年生も積極的に参加してそれぞれ得意のパフォーマンスを披露してくれました。また、当日欠席した生徒の代わりに数学科の加藤先生や国語科の田和先生もマイクを握り会場を沸かすなど、楽しい一時となりました。

3年生にとっては高校生活も残すところあと僅か。この日のカラオケ大会が高校生活の思い出になればいいと思います。

このように学年の垣根を越えて生徒と一緒に楽しめる場所は、分校の良さのひとつだと思います。

生徒情報交換会

今年度、美里分校が新たに始めた取組のひとつに生徒情報交換会があります。これは月に1回程度、全職員が集まって生徒情報を共有するための会議で、6月以降計8回実施しました。美里分校全教員の他、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学習指導支援員、就職指導員など外部の専門スタッフも参加して情報交換を行っています。

美里分校の生徒は、少人数での学習環境を期待して入学してくる生徒がほとんどです。それぞれ様々な学習歴や家庭環境を持ち、学習面、生活面、健康面などで課題や不安を抱えながらも、自分の能力や個性を精一杯伸ばしたいと考えている生徒が、志願してくれていると受け止めています。

近年の少子化の影響で、現在美里分校の1クラスあたりの生徒数は4~9名と10人にも満たない少人数編成となっています。したがって、学級担任をはじめ各教科担当は一人ひとりの生徒とじっくり向き合うことができ、生徒が持つ能力や課題を見極めることができます。

また、教科担当は各教科ひとりずつしかないため、全学年で授業を受け持ち、全生徒と関わります。異動等がないかぎり、教科指導を通して3年間にわたって関わることになるため、一人ひとりの生徒の能力や個性、特性を熟知することができます。

こうした生徒情報を教員同士が職員室等で日常的に共有することで、一人ひとりの生徒が抱えている課題等に向き合い、きめ細かい指導につなげてきました。

一方で、近年は高校生が抱える課題が多様化・複雑化し、教員だけで対応することが困難になることも予想されることから、学校は専門家や外部機関とも連携して組織的に対応することが求められるようになってきました。

また、生徒数減少に伴う教員数減員により、教員の業務負担が増していることは、美里分校が抱える課題のひとつです。

このような状況の中で、一人ひとりに応じたきめ細かい指導を継続するためには、専門スタッフを含む教職員全体による組織的な体制を整えることが重要であり、その方策のひとつが生徒情報交換会における情報共有であると考えています。

今後も様々な視点から生徒の課題を捉え、全教職員が情報を共有しながら組織的に対応できるよう取り組んでいきたいと思っています。

